広報委員として

広報担当副会長
玉城　信光

昨年1年間、広報委員としての仕事をあまりしておりません。まずはお詫び申し上げます。私を除く他の先生方のおかげですばらしい医師会報が出来ていることに感謝しています。私の仕事は委員としての仕事より執筆者としての登場が多いように思います。日本医師会の代議員会や九州医師会連合会の会議報告等、現在医師会が抱えている問題の提示と各県の意向、動きはどのようになっているかの報告です。

医師会報には多くの情報が掲載されており、それがそのまま資料として蓄積されていきます。過去の仕事、懸案事項が解決されたのか、医師会報を資料として分析もできると思います。また会員動向をみるときに本土に帰った同級生も沖縄にいた頃の病院がわかることにもなります。

昨年の目玉は女性医師部会の立ち上げです。全国勤務医部会での依光先生の報告、また女性医師フォーラムに95名の参加者がいたこと。今後の活動報告は今年の目玉記事の一つになると思われます。

今年の医師会報の記事で大切なことの一つは医師会館の竣工です。12月の医学会は新しい医師会館で出来ると思います。平成20年度の医師会総会も開催してはどうでしょうか。シンポジウムは“新しい医師会のあり方”で医師会館をどのように活用し、社会に開かれた医師会活動はどのようにあるべきかを問うてみたいと思います。会館落成特集号をつくりましょう。

今年も広報委員の先生方にお世話になりながら、末席をけがしたいと思います。

新春に寄せて

広報担当理事
村田　謙二

月日が経つのは速いもので、広報担当理事として2度目の新春を迎えることになりました。つつしんで新年のご挨拶を申し上げます。

私は30代の頃より様々なジャンルの本を読むのが趣味の一つになりました。読書に触発されて自分の視野が広がり、思索が深まることは楽しいものです。広報担当理事となり会報の編集に携わることもそう深刻には考えず、むしろ新たな楽しみが増えるかも知れないという淡い期待で引き受けました。しかし、読む側から作る側にまわることは、そう簡単なことではありませんでした。特に締め切りに追われながら継続することがいかに大変なことか、今更ながら身にしみて感じています。

さて作る立場からしますと意外に扱いの難しいのが随筆です。個人の意見だからと割り切って、内容を無審査で採用すれば事は簡単です。しかし、会報の位置づけは中立性が大切だと考えていますし、基本的には学術誌的な要素もあります。紀行文のはずの内容がひとたび政治的発言の色彩を帯びてくると、広報委員会では採否をめぐって議論百出まとまりません。あるいは医療上の話題ではありながらも独創的なあまり独善性が疑われたり、他に対し批判を通り越して誹謗に近づくこともあります。大方の読者は寛容の精神で消化してくれるのでしょうが、研修医の読者を想定すると掲載に躊躇せざるを得ません。

発言の自由を守ることと会誌の品格を保つこと、この両立が難しいのです。採用不可や書き直しをお願いするにせよ、広報委員会の見解をはっきり筆者にお伝えすることが、投稿の権利を保障することにつながると考えています。また委員会の意見は無理に多数決で決めるのではなく、相容れない意見がある場合は並列に述べて筆者にお届けしようと考えています。それが編集に携わるものの良心と理解しています。

年始から固苦しい内容になりましたが、大切なことだと考えていますので述べさせて頂きました。今年も会報をご愛読下さい。

2008年、新春の挨拶

広報副担当理事
野原　薫

会員の皆様、明けましておめでとうございます。十二支の始めの“子”年にあたり、新しい希望の幕開けとなりますよう祈念いたすと共に、本年もよろしくお願いいたします。

広報委員になって早や10年となりました。昨今、国の医療制度が目まぐるしく変わる中、原点に戻って医師会及び医師会報の役割を考える年にしたいと思います。また、医療についてマクロ及びグローバルな観点から視ていこうと思っています。広報については、現在の情報過多の時代において真に必要な医療関連の情報を発信できるよう努めたいと思いますので、会員の皆様方のご協力をお願いいたします。

本年も会員の皆様にとってよい年でありますよう願っております。

新春のご挨拶

広報委員（北部地区医師会）
比嘉　敏夫

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。広報委員の仕事ももうすぐ2年になります。月一回の名護と浦添の往復ですが、意外と疲れるものです。それでももうひとがんばりやっていくつもりです。

今年の干支は子（ね）です。昭和23年生まれなので私は今年還暦を迎えます。特に何か変わることもないので今年も平々凡々と過ぎていくと思われます。しかし高校の同期、特に公務員はほとんどが今年から来年にかけて定年退職することによりかなり生活に変化がみられるようです。退職後の再就職はなかなか厳しいようです。60才は頭も体もさびついていないはずなので、働きたい人には働ける場が提供されていいのではないかと思います。全国的に団塊世代の定年後の再雇用が議論されています。所得倍増、日本列島改造、大学紛争、バブル期とその崩壊など戦後の日本の成長を荷ってきたこの世代はたくましいはずです。若年者が減り高齢者が増えていく中で、この世代はそれ以前と同じような安定した老後にならないことをよく知っています。これまで競争社会を生き抜いて得てきた経験は新しい高齢化社会をしっかりしたものに作っていける充分な力になるのではないかと思います。

まだ退職とは程遠い生活を送っている身からすると、社会の中で充分力になりうる同輩が去っていくのがなんとももったいない話に思われます。

なにはともあれ、会員の皆様にとってこの子年がすばらしい年でありますよう祈念致します。

【新春の挨拶】

広報委員（中部地区医師会）
比嘉　靖

あけましておめでとうございます。はやいもので、これで本誌上では2度目のご挨拶となりました。広報委員としては、活動が日常診療業務の後になるため、広報委員会の仕事については十分に参加できないこともありました。本医師会報の編集会議では、会報全体のバランスを見渡しながら作業はいまだに難しいのですが、会員の先生方への新聞投稿の依頼や投稿していただいた原稿の校正など、事務的な部門では多少は貢献できたのではないかと思います。旧年中、会員の先生方にはお忙しい中、ご投稿、ご寄稿にと、多大なご協力いただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。本年も、中部地区医師会の代表として、広報委員として活動させていただきますが、本医師会報が会員から信頼される情報提供の手段、魅力ある論文の発表手段として会員の先生方に感じて頂けるよう、微力ながら昨年以上の貢献ができればと思っておりますので、本年のより一層のご協力、ご指導をよろしく御願いします。

個人的には本年が心身ともにはつらつと活動できる一年であるように、次の言葉を年頭を飾る言葉としたいと思っております。

「炭と昆布をかざてぃ、姿若くなゆさ」。

新年をきちんとした気持ちで迎えれば、年をとるのではなく、心身ともに若々しく迎えられ

るという意味と受けております。有言実行できるようがんばりたいと思います。

新年のご挨拶

広報委員（浦添市医師会）
池村　剛

新年あけましておめでとうございます。今年で広報委員を勤めて4年目になります。何度か会報内の報告記事や編集後記などを担当させていただきました。文章を書くことにほとんど縁がなかったこともあり、執筆の順番が巡ってくると書きあがるまでは他の事に手が回らない状態になりますが、自分なりに色々工夫し、最近では苦労しながらも楽しんで書いています。会員の皆様が、読みやすく分かりやすく、そして少し面白く読める記事を掲載できるよう努めていきたいと思っております。

平成20年は診療報酬の改定が行われます。昨年10月頃は、初診料・再診料などを中心に減額情報一辺倒で、どのような改定になっていくのか心配されましたが、小児科・産婦人科・救急医療などの崩壊が危惧される中で、減額改定は避けられるようです。それでも、減額が無いというだけで、限られたパイの中で診療報酬の再配分が行われることは間違いありません。診療科によっては向かい風の改定も予想され、医療経営の厳しさは変わりないようです。

今年も、色々な出来事のある中で、楽しいこと嬉しいことが少しでも多い一年であってほしいと願っています。本年も宜しくお願いいたします。

親父のてんぷら

広報委員（那覇市医師会）
玉井　修

新年あけましておめでとうございます。お正月とは全く関係がありませんが、私の親父のてんぷらについて書こうと思います。親父はてんぷら屋さんです。日本料理の天ぷらではなく、沖縄てんぷらのてんぷら屋さんです。親父のてんぷらは遠くからもわざわざ買いに来るほどの評判で、私の病院の横で、73歳になる現在でもてんぷらを揚げています。私も子供の頃から食べていますが、特徴は衣がしっとりしていて、歯触りはもっちり、具はジューシー、揚げたてよりも少し冷めたあたりが最高です。きつね色ではなく、黄金色のてんぷらが程よく冷めた時にタイミング良くほおばると、衣と具の間に丁度小籠包の様なスープがあり、口の中に幸せな美味しさが広がります。

親父にこのてんぷらの作り方を教えて欲しいと最近頼んでみましたら、てんぷら屋を継ぐ気だったら教えてやると言われました。私は継ぐ気はないのですが、幸い弟が店を継ぐことになり、親父の奥義は弟に一子相伝という事になりそうです。しかし、そこは親子なので、奥義の一端を得意げに話してくれました。まず衣は熟成させるそうです。最初その事を聞いたときには意味がわかりませんでした。衣は何日か寝かせて熟成させたものを、ある配合でこねるのだそうです。温度や湿度によっても若干の違いがあり、若い衣と熟成させた衣を混ぜ合わせる事が肝心だとか。ほほう、何だか社会全体を象徴するような衣の話ですね。などと茶化しながら更に話を聞きます。こねるときは機械でこねると味が落ちるそうで、必ず自分の手でこねます。こねる機械を買って試したことがあったそうですが、全然美味しくなかったそうです。てぃーあんだとはこのことですかね、と私は相づちを打ちます。そして具の魚ですが、食材が新鮮で、上質なのはもちろんですが、実は包丁が決め手だそうです。親父の包丁は、たった1本の包丁をずっと磨いで使っているので、今では果物ナイフの様に小さくなってしまいました。高額な包丁を買ってきて、何度も試してみたそうですが、結局今の包丁が一番だったとか。ちなみに、その使い込んだ包丁は、いったい最初はどのくらい値が張ったのですか。と、不埒な質問をすると、何でもこの包丁は最初は母親の台所包丁だったそうで、その辺の金物屋さんで買ってきた安物だったそうです。ほーっ、ものの価値は値段ではなく、使う人の心一つですな、と更におだてました。そんな親父のこだわりのてんぷらも、日によって出来、不出来があり、また予想がつかないので厄介だそうです。自分の満足いくてんぷらが揚がった時は、病院に電話が入ります。美味しいてんぷらは、見ただけで分かるようになりました。病院に通う患者さんが太って

来ると、よく恨めしそうに言われます、あんたのお父さんのてんぷらのせいだよ。

『鈍感力』

広報委員（南部地区医師会）
照屋　勉

あけましておめでとうございます。ここ4～5年来、医療界を取り巻く環境は、年毎に厳しさを増してきているように思われます。例えば、自由診療vs保険診療という混合診療の問題（株式会社の参入、医療格差の増大）、産科医・小児科医の不足、慢性的な看護師の不足、レセプトオンライン化によって起こりうる功罪（セキュリティーの問題）、ジェネリック品使用の有無（後発品薬害訴訟問題）、特定健診・特定保健指導の諸問題（民間の健診事業者の参入）、介護難民問題（療養病床の再編）、診療報酬のさらなるマイナス改定という大問題・・・などなど。しかしながら、これらの難問の解決の糸口さえ見えないまま、映画「Sicco」の世界へどんどん引き込まれていく今の日本の現実を、心配しない国民はいないと小生は確信しております。ところで、『鈍感力』（by渡辺淳一氏）という名言があります。小生的に、今年は、この『鈍感力』を身につけて・・・、さしあたり落ち込まず、「はい、はい」と元気に返事をして、よく眠り、図に乗り、鈍い腸を持ち、誠実さを持ち、常に前向きに、人を許して、感謝して、不快感をのみ込み、「鋭さ」と「ナイーブさ」に磨きをかけていきたいと思っております。本年もどうか、ご指導・ご鞭撻の程、よろしくゴザイマス・・・。

新年のご挨拶

広報委員（国療沖縄公務員医師会）
久場　睦夫

新年あけましておめでとうございます。

旧年も様々な出来事がありましたが、どちらかというと全般に暗いニュースが多かったように思います。本県では、歴史教科書改ざん問題が連日、大きく報道されました。この歴史改ざんは、世界中からいっせいに批判を浴びた、万人が認める既知の事実とされている韓国における戦時中の慰安婦問題を無かったものと発言した一部首脳の一連の企図と思われてなりません。医療界も残念ながら一向に明るいきざしがみられません。「社会補償費の抑制」の方針は変わっていません。診療報酬のさらなる削減が挙げられています。療養病床の削減のため、行き場の無い患者が増えています。このため診療が円滑に行い得ず、医療者は日々苦悩を強いられています。適切な医療を提供するため医師会員・国民皆で声をあげ頑張りたいものです。

新型インフルエンザの危惧は今年も続いています。

様々な問題がありますが、この医師会報を通し、連携を密に医療の向上に努めましょう。

本年もよろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

広報委員（琉球大学医師会）
植田　真一郎

あけましておめでとうございます。

昨年はあちこちでの医療崩壊という言葉を聞くようになりました。

医師会の雑誌で言うべきことではないのかもしれませんが、某経○諮○会議に象徴される競争原理だとかグローバルとかが諸悪の根源になっているような気がします。そこからなにか悪い方に走っているような気がしてなりません。どのような世界でも競争は無くなることはありませんが、持ち込むひとの素養が重要ですし、もちこむところを間違えるととんでもないことになります。特に数値や効率だけを見るあまり、時に一番大切なものを見失ってしまうということもあります。数字を使って立石に水のような話をされると、なんか納得してしまう、というあれですね。医療の中には決して数値化されないもの、絶対に効率化できないもの、マニュアル化できないもの、日本人であればこそ大切にしたい価値観などがあり、最近これらが失われて行くようで残念です。大学を取

り巻く環境も厳しく，行き過ぎた競争原理が、少なくとも教育者でも研究者でもない人たちによって持ち込まれています。そんな状況で外部資金は必要だと言われますが、一方で利益相反問題も生じてきています。タミフルの問題に象徴されるような問題が起こると、すぐ週刊誌を中心に研究のための寄付金は賄賂だと言われます。こういうことになるとすぐ報道は極端になりますね。苦労して外部資金を獲得しても、核となる教員（医学研究者）の採用は簡単ではありません。大学での医学研究の在り方も変わりつつありますが、生き残る努力はしつつ、しかし本筋を忘れず、本質的な臨床研究を続けて行きたいと思います。

新年のご挨拶

広報委員（沖縄県公務員医師会）
上田　真

あけましておめでとうございます。

県立中部病院の上田と申します。広報委員を拝命し2年目になります。編集委員会では私は他の委員の先生の話を感心して聞いていることが多く、自分の至らなさを痛感しています。

昨年印象に残ったものの一つとしてはマスコミとの懇談会、「ドクターヘリについて」に参加したことがあげられます。「ドクターヘリ」とは別の「ヘリ添」、離島の診療所または病院からの患者搬送に医師が添乗すること、について現状と現場で議論が続いていることをマスコミに説明させて頂きました。

今年はさらにお役に立てればと思っています。よろしくお願いします。

我　笑

広報委員（那覇市立病院医師会）
久高　学

あけましておめでとうございます。

21世紀になって10年近く経ちます。この10年間で医療を憂える危惧論が山の様に言われてきました。医療費削減、医療事故、医療倫理、医療制度改革・・・。日本人は悲観論や憂国論が大好きです。日本悲観論を書けば本が売れますし、日本は沈没すると叫べばそうだそうだと大衆が共鳴します。医療の世界も同じです。医師が集まる会合の挨拶では、これからの医療についての不安、恐れ、憂慮がだくだくと述べられます。そして最後にきまってこのセリフです。「大変だけど頑張ろう！」

医療の世界って本当に大変なのかなって考えます。世間に流布された根拠のない噂に心を左右されているだけじゃないかなって思うことさえあります。確かにこの仕事はハードですし、国が医療をよからぬ方向に誘導しようとしていることもわかります。「でもそれって変化を恐れているだけじゃないの」とも思うんです。未来は自分の心の中にあります。数字だけを求める時代ではなくなりました。今を守ろうとするから変化が恐ろしくなります。時代の流れや変遷が、次へのステップアップだと考えるとワクワクします。今までに経験したことのない世界に突入できちゃうんですから。自己進化ってやつです。異次元の世界に突入したときに、必ずチャンスがやって来ます。大切なのはここです。その時のために準備を怠らずにチャンスを掴むことです。「チャンスは前頭だけに髪の毛があり、後頭ははげている。これに出会ったら前髪を捕らえよ。」って名言もあります。時代の波に弓を引くことは出来ません。溺れるだけです。変化の波がやって来たら思いっきり乗ってみることです。そうすれば新しい世界が見えてくるはずです。

医療にはきっと明るい未来が待っています。我々はますます求められる人です。だから自分を磨かなくっちゃあいけません。

「大変だけど頑張ろう」より「今年もきっと素晴らしいからもっともっと頑張ろう！」の方が素敵です。新春の挨拶は、大きく明朗な声で笑いながら「我笑」と参りましょうよ。